

## 2017年05月12日 記者会見 質疑応答（大阪）

発表内容：2017年3月期決算について

日 時：2017年05月12日（金） 15時52分～16時22分

場 所：日本銀行 金融記者クラブ（大阪）

発表者：りそなホールディングス 代表執行役 菅 哲哉  
近畿大阪銀行 代表取締役社長兼執行役員 中前 公志

### 【質疑応答】

#### Q. 中小企業向け貸出など足元の関西の景況感は

##### A. (菅代表執行役)

足元の貸出金、設備投資貸出しもプラスで推移しています。関西でもそのトレンドは変わりません。ただこの動きが力強いものなのか、持続的なものなのかについては、グローバルな経済環境も勘案するとあまり強いものではないと考えています。例えば、業種的には、介護・医療などの伸びが顕著ですし、当社は信託を併営していますので、いわゆる資産家の資産管理会社向けの貸出などが伸びています。

##### (中前社長)

直近のヒアリングによると、設備投資を考えている企業は1700社のうち約600社となりました。伸びたのは、製造、卸・小売、医療・介護、宿泊などや、富裕層の資産形成を背景とする不動産の分野です。前期は設備貸出残高が260億増加となりました。やっと動き出したという感じは受けています。

#### Q. 統合の進捗状況は

##### A. (菅代表執行役)

3月3日に発表した以降のことで、新たにご報告できることはありませんが、現在、統合準備委員会を適宜開きながらスピード感を持って協議しており、進捗状況は順調です。

#### Q. 投資信託の販売についてマーケット環境で難しい面があったと思うが、それ以外の要因もあったのか？また今後の見込みは？

##### A. (中前社長)

従来から我々は、フィデューシャリー・デューティーを大事にしています。プロセスを重視し、顧客本位の営業を徹底する教育研修、透明性のある手数料体系などを整備してきましたので、販売体制に従来と大きな変化はありません厳しいマーケット環境で投資信託の販売が落ちていますが、今後については、回復が期待できると見込んでおります。

#### Q. 国際業務は特にどの部分に力を入れるのか

##### A. (中前社長)

貿易決済です。ダイレクトディールを推進してきたことで、貿易決済が増加しています。外為取引先も大幅に増えていますので、今後国際業務でも収益が上がるの見込んでいます。

#### Q. マイナス金利の具体的な影響は

##### A. (中前社長)

競合の要因も大きいと考えられることから、マイナス金利の影響によるものなのか、競合によるものなのか、はっきり分けることが難しいというのが実感です。

以上